

ピース・ウイング長崎 会報

へんりつ

117号



■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

■平成20年度 長崎平和推進協会事業計画・予算 ■継承部会員・平和案内人合同広島研修を開催
■平和への想いを伝えるピースネット ■海老名香葉子氏講演会報告 ■祈念館だより



継承部会員・平和案内人合同広島研修(2月26日、広島平和記念資料館)

今年はこのような事業を計画しています！

今年度の財団法人長崎平和推進協会の事業計画と予算について会員のみなさまにお知らせします。

I 一般事業

34,016千円（前年度34,832千円）

1 発刊事業

2,002千円（前年度2,524千円）

- (1) 会報「へいわ」の発行（年4回）
事業活動をはじめ、平和に関する情報をタイムリーにとらえてお届けします。
- (2) ブックレット「平和のあゆみ」の発行（年1回）
年間を通じた平和意識高揚のためのさまざまな取り組みや、活動実績などを総合して1冊のブックレットにまとめます。
- (3) その他の広報活動
情報ボックスの発行、ホームページの運営を通じて、協会の理念や活動状況を広く周知します。

2 啓発事業

1,420千円（前年度1,620千円）

- (1) 被爆体験講話
被爆の実相を広く後世に伝えるため、修学旅行生や市内の小・中学生などを対象に被爆体験講話を実施します。
- (2) ピースネット
遠方や県内離島の小・中学生を対象にインターネット会議システムを利用した平和学習を実施します。
- (3) 設立記念講演会
平和問題への認識を深めるため、協会設立を記念した講演会を開催します。
- (4) 国連軍縮週間記念行事 [写真参照](#)
国連軍縮週間に若い人たちが参加しやすい記念行事を催し、平和意識の啓発を行います。



3 調査研究事業

200千円（前年度200千円）

平和関連の会議やシンポジウムなどに出席し、情報収集や関係機関との交流を図ります。

4 育成事業

6,170千円（前年度7,289千円）

- (1) 部会活動（継承部会、写真資料調査部会、国際交流部会、音楽部会）
会員が市民とともに、平和意識の高揚を図るためのさまざまな分野の活動を行います。
- (2) アジア青年平和交流 [写真参照](#)
相手の国の文化や歴史を学び、現地の人々との交流を通じて平和意識の向上を図るため、若者をアジア諸国に派遣します。
- (3) ボランティア活動支援
次世代の平和活動の担い手となる学生ボランティアや外国語ボランティアの活動を支援し、平和認識の視点を醸成します。
- (4) 平和事業支援
協会の活動趣旨と一致する音楽会や講演会、シンポジウム、外国人弁論大会などの事業を支援し、平和関連の事業を推進します。
- (5) 秋月グラント
被爆体験の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体にその事業費用の一部を助成します。
- (6) 平和案内人派遣
修学旅行生や観光客などを対象に原爆資料館、追悼平和祈念館や被爆建造物などのガイドとして平和案内人を派遣します。



Ⅱ 受託事業

290,656千円(前年度275,783千円)

長崎市や国から以下の業務の委託を受けて事業を行います。

- 1 長崎原爆資料館観覧料徴収・受付案内業務
- 2 長崎原爆資料館図書資料整理業務
- 3 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運營業務

Ⅲ 収益事業

25,000千円(前年度25,000千円)

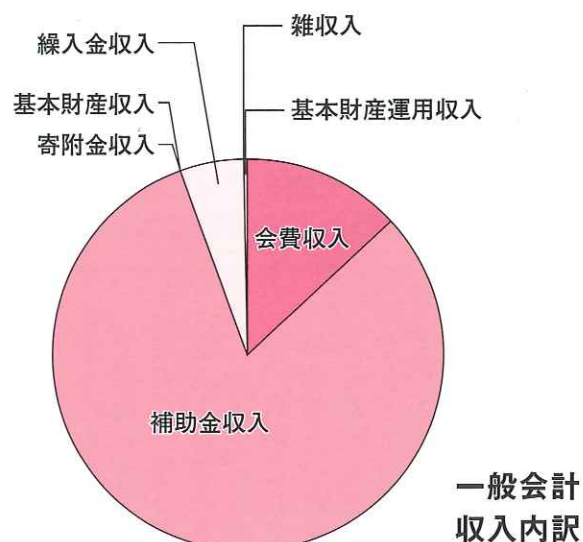
原爆や平和に関する図書や平和意識を啓発する物品を原爆資料館で販売します。

平成20年度 収支予算

収入

(単位 千円)

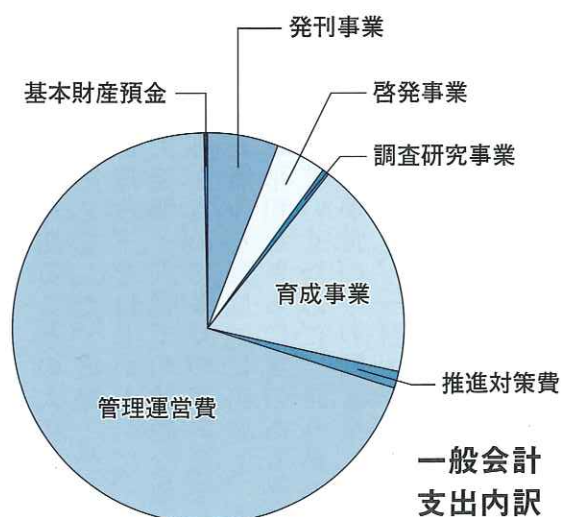
	科目	今年度	前年度	対前年比
一般会計	基本財産運用収入	24	24	0
	会費収入	4,471	4,480	△9
	補助金収入	27,718	28,525	△807
	寄附金収入	1	1	0
	基本財産収入	1	1	0
	繰入金収入※	1,800	1,800	0
	雑収入	1	1	0
	一般会計 合計	34,016	34,832	△816
会特別	受託事業	290,656	275,783	14,873
	収益事業	25,000	25,000	0
	特別会計 合計	315,656	300,783	14,873
合計	349,672	335,615	14,057	



支出

(単位 千円)

	科目	今年度	前年度	対前年比
一般会計	発刊事業	2,002	2,524	△522
	啓発事業	1,420	1,620	△200
	調査研究事業	200	200	0
	育成事業	6,170	7,289	△1,119
	推進対策費	481	561	△80
	管理運営費	23,742	22,637	1,105
	基本財産預金	1	1	0
	一般会計 合計	34,016	34,832	△816
会特別	受託事業	290,656	275,783	14,873
	収益事業※	25,000	25,000	0
	特別会計 合計	315,656	300,783	14,873
合計	349,672	335,615	14,057	



※収益事業25,000千円から1,800千円を支出し、一般会計に繰入金として計上しています。

より強くなった長崎・広島の絆

継承部会員・平和案内人合同研修 in 広島

2月26日（火）から27日（水）の2日間、もう一つの被爆地である広島を訪れ、継承部会員と平和案内人の合同広島研修を実施しました。

一日目、まずは平和記念公園にて原爆死没者慰霊碑への献花を行い、原爆死没者の冥福を祈念した後、被爆体験証言者の講話の聴講やヒロシマ・ピース・ボランティアの案内による広島平和記念資料館及び平和公園内とその周辺の被爆建造物などの見学を行いました。

また、交流会では広島市の被爆体験証言者とヒロシマ・ピース・ボランティアの方、合わせて39名の参加があり、8班に分かれ被爆体験講話や施設案内の際の工夫やスキルアップの方法、被爆体験継承に関する課題とこれからの活動方法などについて話し合いました。

二日目は、広島市内と呉市内の2つのグループに分かれ、平和関連施設などの見学を行いました。それぞれのコースにヒロシマ・ピース・ボランティアのみなさんも同行し、原爆や戦争の被害状況などを解説してくださいました。

シマ・ピース・ボランティアのみなさんも同行し、原爆や戦争の被害状況などを解説してくださいました。

？ 「ヒロシマ・ピース・ボランティア」とは？

広島平和記念資料館や平和記念公園の慰霊碑の解説などの活動を行うボランティア。

平成11年度から活動を開始し、現在は186名の方が登録しています。

長崎の継承部会員や平和案内人とは、不定期にお互いを訪問するなど交流を重ねており、最近では昨年11月に有志の方々が研修として長崎を訪れました。

「多くの真実を

知ることが大切」

継承部会 羽田 麗子

昨年・今年と継承部会員と平和案内人の方々と合同広島研修の旅に参加させていただきました。

昨年、広島での語り部の方の被爆体験講話をきかせていただき、その後の被爆遺構めぐりに参加して感じたことは、原爆投下・それを実行した米政府に対しての怒りの言葉を度々耳にしたことです。もちろん核兵器を使われたことへの怒りは長崎も同じですが、「怒りの広島」と「祈りの長崎」との違いは、このようなことだったのかとはじめて知りました。

今年も昨年の研修で得られなかったものと再確認ということに参加しました。班別交流会の中では、語り部として話していることが子どもたちにもどのよう受け止められているのか、また、高齢化していく被爆体験者の講話とそれを受け非体験者である若い人たちへの継承のあり方などこの二点がどの班でも話題となり、今後の課題となったようです。

次に呉での見学では、平和を語り継ぐ者として一つでも多く



の真実を知ることの大切さを改めて感じました。広島・長崎への原爆投下をはじめとして、東京大空襲・沖縄での壮絶な地上戦等も含めて多くの尊い命を奪った戦争を徹底的に否定し、今ある平和をさらに実のある平和にしていくために、語り継ぐ私達自身が世の中の動きをしっかりとらえ、一日も早く、核兵器廃絶の実現に向けての活動を続けていかななくてはならないと思います。

「平和を願い、

未来へ語り継ぐ」

平和案内人 入井 浩太

出発の長崎、到着の広島、冷たい雨が降っていました。戦火に焼かれた人々の涙、それとも原爆の炎を消火する意味での雨だったのでしょうか。街はすっかり復興しました。しかし、人の心と体は未だになおりません。原爆投下にはいろんな言い訳がつけられています。国際社会でトップに立って国民は心豊かに平和なのでしょいか？戦火に散り原子の炎に焼かれた人々の無念を誰が受けとめてくれるのか。慰霊碑の前で…、無縁仏の前で…。

今更の如くあの原子の炎をうらめしく思います。今回の研修では過去のこととして、やりすごすことなく、今から未来にむけて、「平和の大切さ」を訴え、研



修した事象について語りつないでいく大切さを痛感しました。

呉では、造船の街として新しい息吹きを感じましたが、南の海底に散った勇姿に改めて涙しました。

広島との交流を通じて、ともすれば流されてしまいそうな「原爆のこと」、非人道的な原爆を語り継ぎ、次の世代にほんとうの平和な日々が来ることを願いつつ、研修の感想とします。

「広島・長崎が

結束して平和の発信を」

平和案内人 船井 サナミ

広島に行かなくては、と思いつつこの歳まで過ごしてしまいました。今回その機会を頂き感謝しております。

資料館・碑めぐりの規模は予想以上に広範で、広島市そのものが被爆遺構なのだという印象を持ちました。限られた時間を可能な限り活かしたスケジュール、走り回るように案内してくださったガイドの皆様のおかげで、充実した時を持つことができました。

広島平和記念資料館本館・東館を合わせた案内は膨大な情報量で、証言者の方が、「資料は充



実しているが、説明だけで終わる博物館になつてはいけない」とおっしゃるように、心を継いで行くことの困難さを感じました。

被爆当日の三枚の写真や被爆第一報を発信した軍司令部跡など、当時の状況を直接感じさせられるものが心に残りましたが、プレスコード下で余り写真が残っていないことは残念です。

又、歴史的背景からくるガイド方法の違いを感じました。広島の場合、被爆地広島を訪れ時間をかけて知ることが第一目的になるのに対し、長崎は観光ポイントの一つになることが避けられず、短時間で核兵器の恐ろしさを伝えることに重きを置かざるを得ません。広島と長崎が交流し結束して、世界に平和を発信することの意義・必要性を重く受けとめています。

1日目 2月26日(火)

- ・献花(原爆死没者慰霊碑) ・被爆体験講話(北川 建次氏)
- ・施設などの見学(ヒロシマ・ピース・ボランティアによる案内) ①広島平和記念資料館 ②碑巡り
- ・広島被爆体験証言者、ヒロシマ・ピース・ボランティアとの交流会

2日目 2月27日(水)

コース① 広島市内の見学(ヒロシマ・ピース・ボランティアによる案内)
広島逡信病院被爆資料室、中国軍管区司令部跡(旧防空作戦室)、放射線影響研究所(職員による案内)、比治山陸軍墓地

コース② 呉市内の見学
呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)
海上自衛隊呉史料館(てつのかじら館)

ピースネット事業報告

「ピースネット」は、平成16年度から実施しており、継承部会交流班員6名が、今年度は山形市など4校の児童や生徒と平和学習を行いました。

おもに長崎を訪れることが難しい地域の学校を対象にしたものであるため、まずは原爆がどのようなものを資料を交えて説明し、被爆体験講話を行います。

児童・生徒たちは画面に映し出された被爆前後の爆心地付近の写真を見比べながら、講話に真剣に耳を傾け、被爆者への質問や感想を発表することにより、原爆の恐ろしさ、平和の尊さを学んでいます。

今年度、このシステムにより平和学習を実施した学校の先生や児童・生徒たちからは次のような感想が寄せられています。

【学校の先生から】

体験者から直接に話を聞くことができ、62年前の遠いまちのこととも身近に感じられたようです。
(魚沼市立広神東小学校)

【児童・生徒たちから】

本人（講話者）が目の前にいなくても、画ぞうと声で話し合っ、気持ちにはちゃんと届いたと思いました。
(山形市立桜田小学校)

この原爆のお話で命の大切さがわかりました。（被爆者が）教えてくれたことを、ぼくの子どもたちにも伝えていきたいです。
(魚沼市立広神東小学校)

たった一回のあやまちでたくさんの方が死んだという過去も大切だけど、一番は今からだだと思います。これから世界の一人ひとりがこの問題を真剣にとりくめばきっと世の中から原爆はなくなると思いました。
(山形市立高楯中学校)



児童の質問に答える講話者



当時の写真を交えて被爆体験を語ります



「ピースネット」とは？

追悼平和祈念館と長崎平和推進協会の共同事業。

祈念館と遠隔地の小・中学校をインターネットを介したテレビ会議システムで接続し、児童・生徒は、映像と音声で相手の表情や声を確認しながら、被爆者との意見交換や平和学習をすることができます。

また、このシステムを利用し、長崎大学が海外の教育機関に対して実施している被ばく者医療の遠隔講義にも協力しています。



長崎大学大学院医歯薬学総合研究科から
ゴメリ医科大学へ向けた被ばく医療講義

海老名香葉子氏講演会

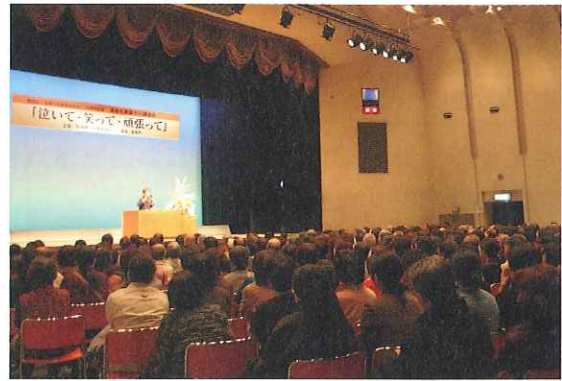
「泣いて笑って頑張って」

2月22日、長崎平和推進協会の開設記念講演としてエッセイストで、昭和の爆笑王・林家三平氏の妻でもある海老名香葉子さんをお招きしました。当日は冷たい雨が降り、とても寒い夜でしたが、満員の会場は聴衆の熱気に包まれました。

船山副理事長の挨拶に続いて始まった講演は、軽妙な語り口で笑いを誘っていました。東京大空襲に話が及ぶと会場は静まり返り、両親をはじめとする家族6人を一晩のうちに失い、疎開先から戻った後、唯一生き残った兄と再会を果たした時のようすを「兄は私に家族と別れてしまった時の状況を語りながら、『すまない、すまない』と生き残ったことを謝り続けるの



自らの体験を交えて語る海老名さん



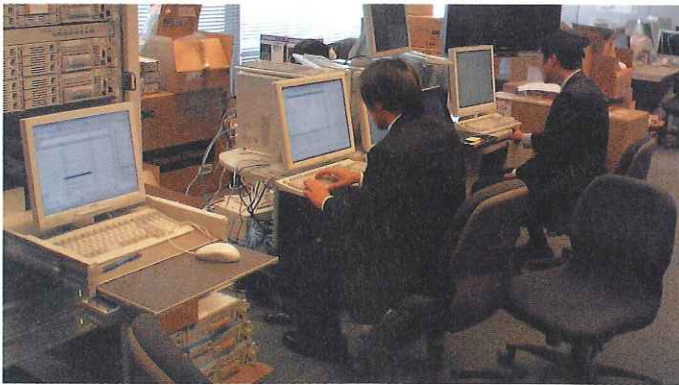
多くの聴衆で埋めつくされた会場

です。」と涙交じりに語る姿には、会場から多くのすすり泣きの声が漏れ聞こえました。世界平和への願いとともなう凄惨な経験から立ち上がり、前向きに生きる姿には心を打たれました。今年、東京大空襲があった3月10日にあわせて民放各局で相次いで特別番組が放送されるなど、タイムリーなテーマの講演会を開催することができました。次回も平和の意義を改めて考えさせられる講演会を企画したいと思います。

祈念館だより

追悼平和祈念館では、4月に被爆体験手記や遺影、平和メッセージなどを展示するシステムを一新します。

これまでは長崎・広島追悼平和祈念館の開館に合わせて作成されたそれぞれ独自のシステムで、お互いのシステムに互換性がなく、また、開館から5年が経過し、データを蓄積するための容量が不足してきたことなどさまざまな問題が発生したことからシステムのリリース期限切



更新作業の追い込み（地下1階研究室）

れに合わせて全面的に更新することになりました。

新しいシステムは、厚生労働省や広島追悼平和祈念館、専門業者などと協議を重ねながら、システムをハード・ソフトの両面について細部に至るまで全面的に見直し、1年以上の歳月をかけて設計、開発したもので、これまでの問題点の解決とともにそれぞれの館の特色を活かしながら互換性を持たせたものにして上げます。

展示の内容自体は、基本的にこれまでのものを踏襲しますが、来館者の方が端末をより快適に利用していただくため、画面展開などを見直して操作性を向上させます。また、これまでのシステムでは容量不足のため、新たに入手した動画などの資料を一般公開することが困難でしたが、これからはその本数を増やすことができるようになります。みなさんのご来館を職員一同、お待ちしております。

会員募集・会費納入のお願い

(財)長崎平和推進協会では、官民一体となって被爆の実相や平和の大切さを伝えるさまざまな平和推進に向けた活動に取り組んでいます。

「平和」な環境を守り、育て、さらに前進させるために、当協会では、新たにパートナー(会員)となつていただく方を募集してします。会員のみなさまには、講演会の優先入場をはじめ、さまざまな特典があります。

会員のみなさまへ

20年度分の会費用納付書を4月中にお送りしますのでよろしくお願いいたします。

紙芝居会が開催されます

長崎市立図書館多目的ホールにて被爆体験とその後の半生を綴った紙芝居の会が開催されます。

継承部会員の吉田勝二さんをモデルにした「私たちが伝える被爆体験」というやさしい内容の紙芝居で、吉田さんご本人による講演もあります。

ぜひ、子どもさんを連れてご来場ください。

■ 日 時 4月12日(土) 11時・14時
(1日2回公演)

■ 場 所 長崎市立図書館多目的ホール

■ 入場料 無料

朗読発表会がありました

3月1日(土)に平和学習室で「第1朗読発表会～長崎の原子雲の下で～」が開催され、約100名の方が聞き入りました。

継承部会と平和案内人の有志で構成される朗読グループが20回以上の練習を重ねて、発表会に臨みました。

朗読発表会の中では、永井隆博士の「原子雲の下に生きて」の手記や自作の紙芝居などが発表されました。



ピープル・トゥ・ピープル 今夏も来崎決定!

米国の国際交流・教育団体「ピープル・トゥ・ピープル財団」が派遣する学生大使が、今夏も長崎を訪れることが決定しました。

今回は、全米から選抜された高校生約300名が、6月13日から7月11日にかけて計7グループに分かれて来崎し、平和・国際交流を行う予定です。

この平和・国際交流については、当協会が支援する長崎の若者による「長崎ユースネットワーク」が主体となって企画、運営していきますが、前回同様、継承部会員や外国語ボランティアガイドのみなさんのご協力を是非お願いしたいとのことです。

会員数報告

維持会員	1,309名
賛助会員	172名
臨時会員	2名
学生会員	5名
合計	1,488名

平成20年3月25日現在

寄附者紹介

- 匿名 (六千円)
- 匿名 (五千円)
- 財団法人広島相互扶助会 (十万円)

おわびと訂正

前号の「へいわ」にて校了後の作業中に印刷会社において2ページ途中で誤って余分な空白の行が挿入されたため、3ページの最終行が欠落しました。

正しくは左記のとおりです。
おわびして訂正します。

- 【誤】 町に住む人の心にも届けてくれ
- 【正】 町に住む人の心にも届けてくれました。